



のびる ほどっ子！

ほっとな未来へ 3C!

令和5年4月28日

横浜市立保土ヶ谷小学校

学校長 宮生 和郎



心のエンジンに火が灯されるとき

～新たな関わりの中で押される「やる気スイッチ」～

学校長 宮生 和郎

4月号でお伝えした正門のサクラの木の若葉はすでに新緑から深い緑色に変わり、その近くにあるトチノキには鮮やかな紅色の花が隆々と咲き、初夏の兆しを感じさせてくれています。令和5年度がスタートして早1か月、3年ぶりにできるようになったことが多いためか、学校内では日々初めて体験しているかのような子どもたちの驚きや歓声が聞こえてきます。



4月24日に行われた全校朝会も3年ぶりの教育活動の一つでした。3年ぶりなので整列や全体で人の話を聞く態度もままならないのではないかと思います。司会の【正門のベニバナトチノキ】先生が前に立った時点でほぼ全員が整列して静かに司会者の方を向いていました。話を聞く態度やその反応も良く、話をしている校長自身が時間を忘れるぐらいでした。話の中心は「自分のやる気スイッチが入るとき」で、自分から知りたいと思うことの大切さや、人との関わりの中で失敗したり負けたりして悔しい思いをした時こそやる気スイッチが入って成長のきっかけとなるという話をしました。朝会のスタートに全員から「おはようございます!」と元気に気持ちよくあいさつを返されたときに私のやる気スイッチは「バシン」と押された感じがしました。話の中で正門にある木に紅色の大きな花がいくつも咲いているのを見て木の名前を調べたいと思い、図書室の図鑑で調べ、さらにグーグルレンズで調べた話をしたところ、グーグルレンズをかなり多くの子どもたちがすでに体験しているような雰囲気でしたので、「わからないことが調べてわかる」ということの喜びの内容や質は大きく変わってきているのではないかという印象をもちました。学校では自分の心にやる気スイッチが入る機会がたくさんあります。それは新たな学びがスタートし、新たな関係性の中で人との関わりが多くなるこの時期に増えてきます。スイッチが押されて心に火が灯ると今まで見えなかった景色が見えてくるものです。ぜひ、自ら学ぼうとする意欲を強くもち、新たな発見をまわりと共有する機会をたくさんもってほしいと思います。

令和5年度第1回学校運営協議会が開催されました。(4月21日)

学校運営協議会は、地域・保護者の皆さんと学校が目標を共有し、一定の権限と責任をもって学校運営に参画する仕組みです。当日は主に協議会の目的を確認するとともに保土ヶ谷小学校中期学校経営方針の重点取組を説明しました。今年度は「だれもが」「安心して」「豊かに」学校生活を過ごすこと(人権尊重の精神を基盤とする教育)をすべての教育活動の中心に据え、○魅力ある授業づくり(授業改善)、○互いのちがいを認め合う心の醸成(いじめへの対応)、○個別最適な学習環境(特別支援教育の充実)、○ともに考え、関わり合う仲間づくり(特別活動)の4つを重点目標として教育活動を進めていきたいと思っています。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。